

意見提出者	該当箇所	意見・質問 内容	事務局の考え方
1 河田会長	自助の実践	市民にとって、防災・減災・縮災が他人事になっています。経験してわかるのでは遅いことを自覚する必要があります。いくら仕組みを改善しても効果は期待できません。	ご指摘を踏まえ、市民への啓発について記載するよう検討します。 「現状と課題」の最上段に、「1. 自らの安全は自ら守るのが防災の基本です。」を「1. 災害から命を守るのは自分自身という認識をすべての市民が持つ必要があります。」に変更し、 「主な取組」の「2. 共助による防災体制や活動内容の充実」の最上段に、「大規模災害発生時における公助の役割を正しく周知し、自助、共助の重要性を啓発します。」を追加
2 西田委員	自助の実践	「自助の実践の促進」に、備蓄とともに、家具転倒防止策やガラス飛散防止策などの取組と、マイタイムラインの作成を追加。命を守るとともに、ウィズコロナで分散避難が必要な中、可能な方には在宅避難を選択していただく上でも大切な視点と考えます。	「主な取組」の「1. 各家庭における災害対策(自助)の実践の促進」について、以下の通り修正するよう検討します。 第1項目中「備蓄など」を「備蓄のほか、家具転倒防止やガラス飛散防止の対策など」に修正 第2項目として、以下を追加 「各家庭で日頃からハザードマップで自宅周辺の災害リスクを確認し、いざというときの行動についてあらかじめ決めておく「マイタイムライン」を作成することの意義を周知し、作成を促します。」
3 森(美恵子)委員	ハザードマップ	守口市防災ハザードマップの事を記載すべきでは？	上欄のとおり、ハザードマップに関する取組を追加するよう検討します。
4 服部委員	ハザードマップ	・密集市街地とハザードマップ 当市の密集市街地や家屋老朽化問題について触れているが、それらの地域の危険性をどのように最終的に知らしめているのか。調べると、ハザードマップには具体的な文言がなく、危機管理・住宅まちづくり・都市交通でも、具体的な、災害時の家屋倒壊危険性の指標数値化やエリア指定、対応マニュアルなどはないようだが、作るべきではないのか。	本市のハザードマップは、主に地震及び水害を想定した危険情報を掲載していますが、密集市街地についてはその解消方針を示す「守口市整備アクションプログラム」の公表や、延焼の危険性を示す「密集市街地まちの防災マップ」の公表により市民周知に努めています。 倒壊危険性のある家屋やエリアを予め予測し、これを特定してマップに記載することは困難ですが、防災講座や自主防災訓練等の実施により密集市街地の危険性や建物の耐震性向上の必要性について直接市民に対して今後もしっかりと周知して参ります。
5 服部委員	自主防災組織	・自主防災組織による活動の充実 私も幾度となく参加しているが、年に一回程度参加したところで、災害時に動けるだけの能力を得られるとは思えない。もっと抜本的な方法が必要ではないのか。	主な取組2のうち、自主防災組織に関する記載を、以下の通り修正するよう検討します。 ・自主防災組織が地域の防災リーダーとしての役割を果たすことを念頭に、未結成地域における結成を促進するとともに、事前防災対策、避難所運営、要援護者の避難支援の各分野に関する研修、訓練を定期的実施し、自主防災組織の自主的な活動を支援します。また、小学校区内の自主防災組織同士の連携を促進します。
6 佐々木副会長	災害時の避難支援	避難時の助け(サポーター)が必要	「主な取組」の「2. 共助による防災体制や活動内容の充実」に下記の通り追加することを検討します。
7 竹嶋委員	災害時の避難支援	近年起こる災害によって、被害を受ける方の多くが高齢者である。地域において、近隣に住む高齢者の情報を責任があるものが把握しておき、災害時には地域の消防団や町会、常備消防とともに、その情報をいち早く使って安否確認や避難の手伝い等を行うなど、これからは高齢者への何らかの配慮が今以上に必要になるのでは無いか。またその場合は個人情報の取り扱いについて、細心の注意を払う必要がある。	「・自身による避難が困難な高齢者や障がい者など要援護者の避難行動が円滑に行われるよう、民生委員や社会福祉協議会、自主防災組織などに協力を求め、避難行動支援の体制づくりを進めます。」
8 寺岡委員	災害ボランティア	主な取組の部分で、災害ボランティアセンターの役割や平常時から備えることについて記載が必要ではないかと感じました。 例えば、災害ボランティアの受け入れをスムーズにするための仕組みづくりや、災害ボランティアセンター運営マニュアルの整備等ができれば、災害が起こっても迅速な対応をしてもらえる安心感が生まれるのではないかと感じました。	「主な取組」の「2. 共助による防災体制や活動内容の充実」の最終に次のように追加するよう検討します。 「・市災害支援計画を策定するとともに、災害ボランティアの受け入れをスムーズにするための仕組みづくりや、災害ボランティアセンター運営マニュアルの作成に取り組みます。」

意見提出者	該当箇所	意見・質問 内容	事務局の考え方
9 西田委員	コロナ対応と避難所運営	コロナに対応した避難所運営、避難場所の拡充、備蓄品の拡充を追加。	<p>「施策をとりまく状況」に以下のとおりコロナに関する記述を追加するよう検討します。 「令和2(2020)年には新型コロナウイルスが世界的流行となるなど、予期せぬ新たな災害への対応も求められています。」</p> <p>また、「主な取組」3を以下の通り修正するよう検討します。</p> <p>タイトルを変更 3. 避難所の充実と災害時における防災情報の提供の環境整備</p> <p>以下の2項目を追加 ・感染症対策を踏まえた避難所運営マニュアルを確立し、熱中症対策やプライバシー保護、女性や高齢者、障がい者への配慮を通じQOL(生活の質)の確保を図るとともに、地域住民主体による避難所運営を促進します。 ・避難所の資器材を整備するとともに、新たな避難所となりうる場所や福祉避難所の確保を進めます。</p>
10 岡山委員	防災に関するハード整備	「主な取組」の「3.」が公助の内容だと思いますが、防災情報の収集・提供方法について言及されていますが、ハード面の防災整備はすでに済んでいるのでしょうか？	<p>ハード面の整備に関し、上欄のとおり、主な取組3を修正するよう検討します。</p> <p>また、「5年後の守口像」について、市の防災体制整備を整えるという面から、以下の通り修正するよう検討します。</p> <p>「3. 災害時における市の体制の充実や、市民の避難行動への理解が深まることにより、自助・共助・公助それぞれにおいて必要な災害対応が適切に行われています。」</p>
11 河田会長	市職員の体制	市役所職員は市内に住むようにしてはどうか。市民の暮らしがよくわかるし、危機管理の観点からも、災害時に市役所に集まりやすい。	<p>「主な取組」3のうち、「災害発生時に市が正確な情報を収集し、市民にいち早く提供できるよう、職員の非常参集体制の強化をはじめ、必要な環境を整備します。」に変更するよう検討します。</p>

②
⑩①
⑩

⑪

基本計画(素案)に対する【質問】【意見】一覧 (施策16 消防・救急)

意見提出者	該当箇所	意見・質問 内容	事務局の考え方
1 西田委員	救命講習	子ども達への救命講習は必要。小学校高学年以上の児童・生徒を対象に、地域などで定期的に救命講習を行い、保護者とともに参加を促すなど工夫する。ひいてはその積み重ねが将来、「自らのまちは自らで守る」消防団員に繋がるきっかけにもなるのではと考えます。	「主な取組」の「1. 早期に救命活動が開始できる体制の充実」に次のとおり追加するよう検討します。 「・多くの市民が早くから救急救命に関する知識・技能を習得できるよう、防災訓練や学校活動などを通じた取組を進めます。」
2 西田委員	火災予防	警察や市民との連携で、空き家やごみ屋敷の見回りを行うことを追加。	空き家のうち倒壊の危険性のある物件については、空家等対策の推進に関する特別措置法の規定に基づき、市は調査を行い所有者に必要な措置を求めています。その他の空き家は件数も多く、関係機関とともに見回りを行うことは実質的には困難と考えています。
3 竹嶋委員	消防団の充実	守口市では毎年新しい消防分団が出来、地域の防災力は上がっている。しかし消防団の訓練が実地に即したものや地域に即したものではない。実際の火災の消火訓練や、災害時に地域の住民をいかに効率的に避難所に誘導するかの訓練など、実際の火事や災害を想定した訓練を、分団独自で行うことが必要であると思う。	「主な取組」の「3. 消防団の体制・装備・活動の充実」に次のとおり追加するよう検討します。 第3項目の「・災害現場で力を発揮できるように、守口市門真市消防組合の協力を得て、火災現場や災害での活動を想定した実地訓練の充実を図るとともに、消防団の装備を充実・強化します。」
4 河田会長	子どもに向けた啓発	少年・少女防火クラブとかボーイスカウトやガールスカウトなど児童・生徒が参加できるグループ活動の創設や活性化も必要です。	「主な取組」の「3. 消防団の体制・装備・活動の充実」に次のとおり追加するよう検討します。 「・子どもの頃から防火意識を育成するため、小中学生等が火災予防啓発活動に参加できる機会を設けます。」

①

②

③

基本計画(素案)に対する【質問】【意見】一覧 (施策17 防犯)

意見提出者	該当箇所	意見・質問 内容	事務局の考え方
1 竹嶋委員	防犯委員	防犯委員の高齢化などにより人員が不足しているとありますが、防犯防災という共通の使命を担う消防団員を積極的に防犯委員に採用してはどうか。	守口市防犯委員会会則では、個人の自主的な意思に基づき会長(守口市長)が委嘱することとなっています。したがって、厳密な意味では市は任命権を有しませんが、地域への貢献意欲が高く心身強健な消防団員が防犯委員を兼ねることは防犯委員会の体制強化につながると考えられることから、折に触れて消防団員に防犯委員会の活動や人員不足について周知していきたいと考えます。
2 竹嶋委員	防犯カメラ	1000台の防犯カメラの設置によって、守口市の犯罪の減少に大きく寄与していることから、この台数を続けて増やしていけばどうか。このように分かりやすく効果があると実証されたものは、どんどんその導入を進めるべきである。またその防犯カメラの機能も、高齢者や子どもの見守りなどにも使えるようになったり、その機能は年々上がっていることから、防犯カメラの更新時にはその機能の向上も積極的に行うべきである。	1000台防犯カメラの効果につきましては、警察とともに検証を行うむね規定しています。 検証結果を踏まえた次期契約更新に当たっては、台数や設置場所の他、ご提案の機能向上の面からも検討してまいります。
3 西田委員	防犯意識啓発	全体的に個々人が犯罪に巻き込まれないためにどうすればいいのかという視点が抜けているように思う。市民一人ひとりへの防犯に対する意識づけの啓発が必要ではないでしょうか。	「主な取組」の3「防犯に関する取組とその効果についての市民への周知」に下記のとおり追加することを検討します。 ① 「守口警察署と連携し、防犯教室や広報誌、SNS等を通じて、犯罪から身を守るとともに、犯罪を発生させないために必要な行動や、犯罪等注意情報を大阪府警察がお知らせする「大阪府警察安まちメール」の活用について啓発します。」
4 服部委員	防犯意識啓発	不審者情報速報など、街頭犯罪がリアルタイム告知されるアプリ等はあるのか。例えば、大阪府警の安まちメールというものがあるが、これの周知などは、危機管理室として、徹底してやっておられるかどうか。	大阪府警安まちメールにつきましては、市ホームページに掲載し、もりぐち情報アプリの「防災・防犯」コーナーにもリンクを設定するなど周知しているところですが、 ① 素案について、上欄のとおり修正するよう検討します。
5 河田会長	道路環境	歩道もガードレールもなく、夜間、暗い道路が一杯あります。街中に通過交通の車が入りにくいように一方通行規制なども必要です。	守口市道を対象に、道路幅員等を鑑み歩道や横断防止柵などの交通安全施設整備に努めているところです。また、道路の暗さのご指摘ですが、道路照明灯は設置基準に従い交通安全上設置しております。 次に、通過交通のご指摘に関しては、通過交通の実態調査やTDM施策の必要性など、市の事業として実施する予定がありません。また、一方通行規制については、公安委員会の所管であり、地域住民の同意が必要となるため非常にハードルが高いものであると認識しております。

基本計画(素案)に対する【質問】【意見】一覧 (施策18 都市空間)

意見提出者	該当箇所	意見・質問 内容	事務局の考え方
1 河田会長	エリアマネジメント	<p>守口市の場合は、京阪電車の守口駅周辺の土地利用が中途半端です。駅前に百貨店があるのは良いのですが、なぜあのような広大な駐車場が必要なのかとか、市役所の跡地をどのように利用するのかとかがまったくバラバラに進められているのが現状です。まち全体に文化の香りがしないのが残念です。</p>	<p>京阪電鉄守口市駅前につきましては、昭和60年度に完了した「都市計画河原地区第1種市街地再開発事業」により整備したものであり、既に完成から30年以上が経過しておりますことから、当該周辺エリアにおける今後のにぎわいや交流の創出に向けた方向性として、ホール機能を始めとする施設の誘導を念頭に、その最適な配置の考え方や、公民連携の導入も含めた効果的、効率的な事業化手法等について検討してまいります。</p> <p>また、その際には、守口市旧市役所跡地活用事業との連携も図りつつ、当該エリアに位置する文禄堤(京街道)も歴史文化資源として活用し、事業を推進してまいります。</p> <p>この趣旨を、下記のように追記するよう検討します。</p> <p>・守口都市核におけるにぎわいや交流を創出するため、民間活力の活用により守口市日本庁舎等跡地に魅力ある空間を創出するとともに、ホール機能をはじめとする施設の誘導を念頭に、その最適な配置の考え方や、公民連携の導入も含め、将来の財政負担に十分配慮した効果的、効率的な事業化手法等について検討します。</p>
2 服部委員	エリアマネジメント	<p>・エリアマネジメント エリアを創造するには、コンセプトをしっかりと掲げることが必要であると思う。例えば、中崎町のように、旧来からの商店街を「レトロ」という味わいで利用しつつ新しい価値を創造するなど、コンセプトがなければ、雑多なわけのわからないものになったり、元ある魅力を相殺したりする。地方都市で、とりあえず駅前だけ近代風なビルを建てたが、奥行きがなく、街の雰囲気とそぐわず空虚であるという例も見てきた。回遊性や、張子の虎にならないかどうかの検証も必要だ。 市として、現在の守口市の魅力と相殺しない形でどのような新しいエリアマネジメントコンセプトを掲げるのが最も効果大であるか考えるのか。 都市の空間デザインを、都市全体からそれぞれのエリアに沿って最適解を出せるような、空間デザインのプロの意見を仰いでみてはどうか。</p>	<p>本市の中心市街地である守口都市核周辺エリアでは、新しい都市イメージにつながる日常の賑わい・交流のあるまちづくりを目指しており、その推進にあたりましては、行政のみならず、市民・企業等の皆様と、当該エリアのまちづくりの目指す方向性を共に描き、共有し、理解を深めていくことが肝要であると考えております。したがって、当該エリアにおけるエリアマネジメントのコンセプトを含めた方向性の検討につきましても、広く様々な方々とともに進めてまいりたいと考えております。</p> <p>また、事業を進めるにあたっては、学識経験者やエリアマネジメントについての先進事例での実践者の方などの意見を幅広く取り入れてまいります。</p>
3 竹嶋委員	エリアマネジメント	<p>新規出店に意欲のある事業者とありますが、できれば首都圏に本社がある大手チェーン店舗の出店を目指す事業者ではなく、守口市を盛り上げていこうという意欲のある守口市内の個人事業者を優先的にこのような輪の中に入れていくような方策が必要である。</p>	<p>エリアマネジメントの推進にあたりましては、行政とともに、まちづくりを推進することに意欲のある事業者の方々の参画も重要であると考えておりますので、その手法についても検討してまいります。</p>
4 岡山委員	密集市街地の解消	<p>「主な取組」の「2.」の老朽建築物の除却、建替えを促進するための新たな財政支援策の目途はたっているのでしょうか。</p>	<p>制度の詳細については、現在、検討中です。</p> <p>本市は、これまで昭和55年以前に建てられた木造賃貸住宅(いわゆる文化住宅)の所有者に対して、建物の除却費等の一部を助成してきましたが、今後、その助成対象を拡大するなどの新たな財政支援策の検討を進めてまいります。</p>

基本計画(素案)に対する【質問】【意見】一覧 (施策19 住まい)

意見提出者	該当箇所	意見・質問 内容	事務局の考え方
1 水原委員	空家対策	守口の空家対策に情熱をもって協力しようという団体等の方々とも連携し、空家セミナーをより魅力的なものにするとともに、市民の皆様や市内外の事業者の方々への周知と連携、所有者の方々への啓発、空家の適正管理・除却の促進、本市の中古住宅流通市場の活性化、そして空家の利活用による居住魅力の向上等に取り組むべきではないでしょうか。	本市では、不動産事業者団体などが参画する「大阪の住まい活性化フォーラム」と連携し、空き家所有者へ向けたセミナーや個別相談会を開催してまいりました。また不動産事業者団体2団体と空き家対策に関する幅広い連携を目的とした協定を平成30年度に締結しました。 素案につきましては、以下のとおり修正するよう検討します。 ・空き家の解消を促すため、空き家への対策に取り組む関係団体と、より一層連携を深め、守口市空家等対策計画に基づき、利活用制度を新たに創設します。また、空き家の除却に対する支援を行います。
2 竹嶋委員	市営住宅整備	市営住宅の長寿命化計画については、現行の計画の中間検証によって、桜町、金下、日吉団地が廃止の方向で進んでいるが、高度経済成長期より市民の受け皿として、市営住宅を供給してきたが、民間を含めた住宅総数が世帯数を上回り、量的供給から居住の質の向上へと転換し、市営住宅の役割も低額所得者や高齢者等の為の住宅セーフティネットへと変化してきたという背景も考慮して、その内容を検討すべきである。	いただきましたご意見については、次期市営住宅長寿命化計画策定に際し、参考とさせていただきます。
3 河田会長	コミュニティ形成	戸建て住宅地にマンションが建つと地域のコミュニケーションがうまくいかなくなります。ガイドライン的なものが必要かもしれません。	守口市開発行為指導要綱に基づく協議の中で、計画内容等について周辺地域住民への説明や自治会・町会との協議等を指導しているところです。

①

基本計画(素案)に対する【質問】【意見】一覧 (施策20 緑・花・公園)

意見提出者	該当箇所	意見・質問 内容	事務局の考え方
1 河田会長	街路樹	街路樹が少なすぎるし、あっても小さいものが多い。 とくに国道1号線の沿道はもっと街路樹を植える必要がある。	国道1号、京都守口線、大阪中央環状線の沿線は大阪府により『みどりの風促進区域』に指定されており、区域内の緑化等を重点的に進めることとしております。 本市においても『国道1号・府道京都守口線及び大阪中央環状線沿道地区地区計画』を定めて、民有地等において土地の有効利用を図りながら、緑豊かなセミパブリック空間を創出することを目指してまいります。
2 岡山委員	緑のネットワーク	「緑・花・公園」に関する取り組みが記述されていますが、「緑のネットワーク」づくりに関する取り組みは進んでいるのでしょうか？	「みどりの大阪推進計画」に基づき、国道1号、府道京都守口線及び中央環状線の主要道路を軸に、本市の地区計画制度における主要道路沿いの建ぺい率の緩和や大阪府の『みどりの風の道形成事業』を活用し、「みどりのネットワーク」づくりを進めています。
3 服部委員	魅力ある植栽	・公園の植栽等のクオリティ 公園の植栽の魅せ方も、時代ごとのトレンドがあると思うが、守口市の植栽の魅せ方は若干古臭さを感じるところが多々ある。人目に付く場所に位置する公園や、人の通り道になっている公園は、街のイメージに直結するので、街の魅力を醸成できるようなおしゃれな植栽・モダンさを感じられる植栽について研究・改善しているのか。 ・桃町緑道公園や西三荘ゆとり道などを見ているとそうであるが、他市に誇れるようなおしゃれな空間を作り上げているとはいいいがたい。多角的に、どのようなデザインや植樹にすればより効果的に魅せられるかを、デザイン・提言できるものが必要ではないのか。	公園の再整備においては、季節を感じる樹木や子どもが楽しめる樹木その他、防災的機能を持たせるために防火樹を配置するなどの工夫を行っています。 桃町緑道公園においては、従前、ソメイヨシノの桜並木が多くの方に親しまれてきたことから、ソメイヨシノや他の種類の桜の木、ヤマモモなどを配置し、長期間様々な色の花を楽しめるような空間づくりを進めています。 西三荘ゆとり道については、花壇を中心に見直しを検討していきます。
4 加藤委員	防災公園	大枝公園は立派な防災公園になりましたが、守口市の北東の方面にも1～2の防災公園が必要と感じます。	旧よつば小学校跡地において、新たに備蓄倉庫や救援物資集配所、かまどベンチなどの防災機能を有した公園を整備します。 その内容を、もりグッドにイメージ図として追加するよう検討します。
5 服部委員	公園の集約化	守口には小規模な公園が多数あるが、場所によっては、人の導線上になく、あまり使われていない場所もある。使われない公園は、自然に朽ちてしまうので、市内で人が集まる公園とそうでない公園でクオリティの差が生まれやすい。公園の集約を行うとあるが、公園と人の導線・使用用途など、どのように研究しているのか。	公園の整備・再整備時において、公園機能や設備、利用状況、誘致距離など、総合的に勘案し、公園の集約化を図ります。
6 西田委員	市民協働	指定管理対象外の公園について、草刈りや清掃活動を行ってくださっているボランティアグループがいる地域とない地域で公園の整備状態に大きな格差がある。「声をかけてくれれば定期的な清掃には参加する」という考えの市民はどの地域にも少なからずいらっしゃるから、現在、市民による公園清掃が進んでいない地域にも市が丁寧に働きかけて「自分たちの地域は自分たちできれいにする」という意識を街中に定着させるべきと考えます。	ボランティアグループによる公園等での草刈りや清掃活動、緑化活動などを本市のホームページ等を通じ発信するとともに、だれもが参加しやすい仕組み等について、他市の事例等も含め、研究していきます。
7 竹嶋委員	市民協働	この項では再三「ボランティアグループ」という言葉出てくるが、街の緑化をこのようにボランティア任せにして良いのか。ボランティアグループによる公園での草刈りや清掃などを総合的に拡充するとありますが、どのようにして拡充するのか。街の緑化は、やはり自治体が責任を持って計画的に進めていく必要があるのでは無いか。	自助、共助、公助の考えのもと、公にしかできない公園設備の大規模改修や高木剪定などは公で行っております。 共助でできるもの、草刈りやゴミ拾いなどは、公園は自分たちのものという意識をもって住民のみなさまにもご協力いただく中、市はゴミ袋や箒、塵取り、鎌などの提供及びゴミの処分を行っています。

②

①

基本計画(素案)に対する【質問】【意見】一覧 (施策21 道路・交通)

意見提出者	該当箇所	意見・質問 内容	事務局の考え方
1 竹嶋委員	道路と景観	豊秀松月線についての文章に「無電柱化により景観に配慮し」という文言を入れてはどうか。	ご意見を踏まえ、以下の通り素案を修正するよう検討します。 P47 1. 安全で快適な歩行空間の整備 「景観や防災面に配慮した、にぎわいとゆとりある歩行空間の創出を目指し、都市計画道路豊秀松月線において、歩道拡幅や電線類の地中化による無電柱化、自転車通行空間や植樹帯の整備を進めます。」
2 秋山委員	道路と景観	通常の道路幅が広がり、どんどん緑が増えれば良いなと思います。	今後、広幅員の歩道整備の際には、街路樹等の設置を検討し、緑を増やす取り組みを進めてまいります。
3 服部委員	道路と景観	・都市景観の形成 守口市は、ストリートファニチャーや植栽で、都市空間のイメージ向上がなされているとはいいいがたい。都市の魅力発信やイメージアップを、目標の一つに掲げているのであれば、ここに力を入れるべきではないか。ストリートファニチャーや植栽をお洒落に見せる方法、都市空間のイメージアップについて、研究したり、プロの助言をいただいたり、計画を立てたりしてはどうか。	守口市においては、守口市旧市役所跡地活用事業では、開発事業者によって、魅力的な景観の創出にもつながる一定規模の広場の整備が予定されているとともに、都市計画道路豊秀松月線整備事業では、ご意見を踏まえながら、その整備内容等を検討し、それらをエリアマネジメントの推進の中で活用することにより、都市空間のイメージアップにもつなげてまいります。 上欄の修正のとおり、「にぎわい」という観点を付加するよう検討します。
4 服部委員	道路と景観	・国道一号線などの、車が多数行き交う国道がメインストリートになってしまっていることも、街の印象をせわしなくうるさいというようなものにしてしまっている。街の魅力を感じられる静かで快適で豊かな空間・回遊する価値のある空間を、国道沿いとは別に醸成する必要がある。あるいは、国道沿いをもっと歩く価値のある場所にする必要がある。	回遊性の向上や、魅力的な都市空間の形成等につきましては、今後の施設整備やエリアマネジメントの推進等の中で、ご意見を踏まえ、検討してまいります。
5 服部委員	自転車対策と歩行者空間	・自転車を減らすためにどうすべきか 守口市では、細い道に自転車の走行数が多く、それ故に歩行の危険や放置自転車の数も多いという状況である。徒歩での回遊性を高める街づくり、歩いて楽しい街づくり(都市空間づくり)を総合的に意識するべきではないか。	公共交通が充実しており、市街地として比較的コンパクトで平坦な本市において、自転車での移動は重要な役割を果たしておりますことから、可能な箇所では歩行者と自転車の通行位置を分離するなどとともに、自転車利用者のマナーの向上を図りつつ、その適切な利用を促進するための環境整備に努めてまいります。 また、回遊性の向上等につきましては、今後の施設整備やエリアマネジメントの推進等の中で、ご意見を踏まえ、検討してまいります。
6 河田会長	道路整備	大日交差点が渋滞するのは避けなければいけません。 平面道路での解消は不可能ですから、モールに向かう車を現在のターミナルの2階に上げてしまおうか、抜本的な対策が必要です。	大日交差点は、ご指摘のとおり府内でも有数の交通量を誇る交差点であることは認識しておりますが、道路を管理する国土交通省、大阪府、交通管理者である大阪府警察、商業施設管理者等が渋滞等の交通課題に対し、対策を講じるものであると考えております。

基本計画(素案)に対する【質問】【意見】一覧 (施策22 上下水道)

意見提出者	該当箇所	意見・質問 内容	事務局の考え方
1 河田会長	水道管の耐震化	基幹管路の耐震化をもっと上げておかないと、南海地震が起これば長期断水は避けられませ ん。	耐震化の向上は喫緊の課題であると考えており、経営戦略で示している とおり、最も重要な基幹管路の耐震化率を、令和10年度迄に50%以上に 上げることを目標に、健全経営を維持しながら精力的に事業を推進してま いります。
2 竹嶋委員	水道広域化	守口市水道局は令和元年12月26日付けで大阪市水道局庭窪浄水場施設を大阪市水道局と共 同で所有、管理していくための基本協定を締結したが、これにより市域を越えた広域的な連携を 行うことで、両市において維持管理等に係るコストの削減や浄水場施設の有効活用などの効果 が見込まれ、大阪府域における水道事業の基盤強化を見据えた広域化の推進につながるものと 考えているとの事ですが、この項には水道事業の広域化についての記載が全くありません。	広域化について、主な取組3の記載に以下の通り追加するよう検討しま す。 「中長期にわたる財政計画に基づき、広域化も含め、施設の効果的な維持 補修及び更新を行います。」 ^①

基本計画(素案)に対する【質問】【意見】一覧 (施策23 地域産業)

意見提出者	該当箇所	意見・質問 内容	事務局の考え方
1 服部委員	中小企業の人材確保	合同企業就職面接会を2度開いているが、その参加人数は増えていると聞く。例えば、高校や大学などとも、より深く連携してはどうか。守口で働くという気風を高めるために、市の広報戦略とも組んで行動してはどうか。	現在、合同企業就職面接会は門真市及びハローワーク門真と連携して開催しており、高校生や大学生の参加実績があります。また、企業の雇用ニーズを鑑みるとより多数の若手求職者の参加が求められています。若手求職者に呼びかけるという観点から、以下のとおり修正を検討します。 「・中小企業が必要とする人材を確保することができるように、高校や大学等に周知した上で合同企業就職面接会を開催するなど企業と求職者とのマッチングを支援します。また、『極の守』等の活用により、本市で働く魅力を発信します。」 広報戦略についても、地元で働く機運を高めるため、地元で働く利便性や参加している地元企業の魅力を伝えるなど、門真市と連携を図り、効果的な周知方法を検討のうえ、取り組んでまいります。
2 秋山委員	ものづくり企業の魅力発信	ものづくり企業の面白さを若い人たちに上手く伝える、支援して下さるところがあれば良いなと思います。	上欄のとおり、素案に追記するよう検討します。 市内ものづくり企業の技術力や商品開発力を市内外に発信することを目的とした『極の守』を平成29年度に発刊しており、ものづくり企業の面白さや魅力が伝わる内容になっています。 また、『極の守』に掲載している企業とは密に連携を取っており、合同企業就職面接会に参加していただく等、市内ものづくり企業で働くきっかけ作りに取り組んでいます。
3 西田委員	企業誘致	働く場として市民のニーズに合った、守口にふさわしい企業の誘致で、新たな産業、雇用の創出を目指すという視点を加えてほしいと考えますが、いかがでしょうか。	新たな産業、雇用の創出を企業の誘致により生み出すことは、従来重要な観点として捉えてきましたが、企業誘致に適した立地の有無も含め、今後も実態の把握に努めてまいります。
4 服部委員	空き店舗と商店街支援	空き店舗が増えてきているが、空き店舗に、スーパーなどと比べても行く価値がある店が入ることが重要であるが、どのように工夫するのか また、守口においても、解散・休止する商店街もちらほら生まれてきている。この現状を食い止めるのは難しいわけで、街灯やアーケードなどの撤去等も含めて、解散・休止の商店街をどうするのか	商店街の方々も、空き店舗については問題意識を持っておられ、大学と協働し空き店舗対策についての意見交換を行う等対策を講じておられるので、市としてもその後押しをすべく商業振興事業支援補助金の制度を周知し、活用していただいています。 また、解散・休止する商店街においても、金銭的支援をして解散・休止の後押しをするのではなく、その前段階において、相談を頂くことが多いことから、どうすることが最善なのかを話し合い、商店街の方々のご納得していただける方法を講じています。
5 河田会長	事業継続計画	企業の事業継続計画(BCP)の普及が低く、今回のコロナ禍でも大きな被害を受けているはず です。 市民の従業員や社員も厳しい状態だと思えます。 でも、南海トラフ地震が起こればそれどころではありません。	大規模災害時は、市内事業者も大きな被害を受けるとともに、サプライチェーンの断絶により、その後の事業継続が困難になることが懸念されることから、大規模災害の発生に対応した事業継続計画(BCP)の策定や、これに即した定期的な訓練の実施の重要性についても、関係機関と連携し、周知に努めてまいります。

基本計画(素案)に対する【質問】【意見】一覧 (施策24 魅力創造・発信)

意見提出者	該当箇所	意見・質問 内容	事務局の考え方
1 服部委員	魅力創造	・地域資源を活用 守口市のように、自然や名産物などの資源に乏しい街において、地域資源のみに着眼点を置いて魅力発信してはいけない。むしろ、新しい文化や特性を生み出すというような視点も必要ではないのか。	市民や民間事業者等の関係機関とも連携を図り、本市の独自性が溢れる文化の醸成や新たな魅力の創造に取り組んでまいります。
2 服部委員	魅力発信	・魅力発信 どのような魅力を発信するのか、コンセプトやイメージをきっちりと決めているのか、またどのような目標をさだめているのか。 というのも、何を目標とするかでやり方が変わってくるからである。 例えば、流入人口を増やしたいとしても、どの層を取り込みたいのかなどで手法が変わってくる。 就労人口を増やしたい→若い人が魅力を感じるようなイメージ→守口市のイメージは治安が悪い→安心してクリーンなイメージの人物を広告に起用 というように、目的に従ってコンセプトを立てる必要があるし、これまでの守口のイメージと相対して、どのような悪いイメージを打ち消すかを考える必要もある。 例えば、現在はお笑い芸人を中心に、広告キャラクターを起用しているが、これも善しあしでお笑いというイメージ付けになってしまう側面もある。 このように、何を守口の主たるイメージにしたいのかをしっかりと考えて、コンセプトチャールにイメージ戦略を練るべきではないのか。	以下のとおり、素案に追記するよう検討します。 ・守口の魅力を戦略的に発信するため、コンセプトを設定し、ターゲティングを行った上で、効果的なシティプロモーションの取組を進めます。 ① なお、現在、守口市のシティプロモーションは、30代前後の若年層を想定し「なんとなく」守口に住んでいる市民を「守口」だから「住んでいる市民に！」をコンセプトに進めています。 今後も、シティプロモーションを進めていく上で、効果的な内容をタイムリーに発信していくため、更に検討を進めてまいります。
3 秋山委員	魅力発信	守口市が「高速道路に乗ったら通過するところ」という感じになっているのはとてももったいないと思います。	施策24を進めて行き、市外から多くの人に立ち寄っていただける魅力ある街を目指します。
4 服部委員	SNSの充実	・SNSを活用とあるが、昨今さまざまな街のSNSがあふれている中、市外からも興味を持ってもらうほどの強力なキャラクター性や面白みが必要ではないのか。他市との差別化をどうするのか。	以下のとおり、素案を修正するよう検討します。 ・市政情報やイベントなどに対する市民の関心を高めていくため、話題性のある企画や閲覧状況等の分析など、ホームページやSNS等の効果的な活用に努めます。 ②
5 服部委員	市内消費喚起	・大阪関西万博 守口に泊まってもらうとともに、市内で消費してもらうことが重要だと考えるが、どのように工夫するのか。	インバウンドビジターに魅力を感じてもらい宿泊や訪問してもらうことによる市内商業の需要拡大を図るため、外国人の視点から見た市の魅力をモニター調査を行い、効果的な周知を行っていくこととしております。
6 河田会長	都市交流	守口市にはない魅力のある他府県の都市などと協定を結び、災害時の応援受援だけでなく観光や教育などで交流を深める。	本市では、高知県東洋町・和歌山県かつらぎ町・滋賀県高島市と友好提携を結び相互交流を行っているところです。災害時の相互応援に関する協定書についても締結しており、今後も、相互の観光PRや子ども交流会などを行ってまいります。

基本計画(素案)に対する【質問】【意見】一覧 (施策25 環境)

意見提出者	該当箇所	意見・質問 内容	事務局の考え方
1 河田会長	都市景観	<p>都市の景観としてあまりにも緑が少なすぎます。それから、遊歩道や公園も雑草が目立ちます。地域住民にボランティアで協力してもらう仕組み作りが必要です。公園はスポーツをするだけの場ではありません。ほかの都市の成功例を学ぶべきでしょう。</p>	<p>本市の市街地は住宅が密集しており、まとまった緑が少ないことから、『みどりの環境をつくる条例』に基づき、公共施設の緑化はもとより、民地への緑化も呼びかけており、今後も引き続き、緑化の推進に努めます。遊歩道や公園の雑草等については、大規模な除草を年3回程度全183公園において行っておりますが、雑草の生育状況等により、年3回程度の大規模な除草でも追いつかない場合があり、それだけで除草を行うのは限界となっていることから、地域住民のみなさまの協力が必要と考えております。そのことから、ボランティアで協力してもらう仕組みとして、市によるゴミ袋や箒、塵取り、鎌などの提供及びゴミの処分を行うとともに、市民協働について、他市の事例も含め研究しているところです。公園はスポーツをするだけの場ではなく、緑豊かな安らぎの場、子どもたちが元気に遊ぶ場、散歩・休息の場、防災機能を有する場として、市民ニーズにマッチした公園整備を進めます。現地視察や講習会、研修会を通じて、先進事例に学び、公園整備に取り入れていきます。</p>
2 服部委員	不法投棄対策	<p>・不法投棄看板の設置 不法投棄に関しては、通報があるとクリーンセンターが迅速に対応し、頻繁に起こる地点については看板の設置を行っている。だが、「不法投棄禁止」などの大きな看板そのものが、美観を損ねたり、街のイメージを低下させる要因にもなってしまう。不法投棄を減らすためのモラル醸成についてどのようにしていくのかと合わせて、美観を損なわない形での看板設置やデザインの工夫、防犯カメラとの上手な対応など、よりスマートに見せる方法はないのか。</p>	<p>以下のとおり、素案を修正するよう検討します。 「不法投棄の防止のために、警察と定期的な情報交換を行うとともに、防犯カメラの活用など犯罪抑止効果が高く、不法投棄をされにくい環境づくりに取り組みます。」</p> <p>不法投棄は、死角となる特定の箇所に投棄される場合が多く、常習的で、犯罪行為と認識しつつも行われていると考えており、周辺住民も投棄する場面に気付きにくい現状があります。不法投棄については、引き続き、犯罪であることや、花壇やセンサーライトを設置することで犯罪抑止の効果があることを啓発し、さらに悪質な不法投棄については、警察と連携し、防犯カメラを活用していきます。</p>

①

基本計画(素案)に対する【質問】【意見】一覧 (施策26 行財政運営)

意見提出者	該当箇所	意見・質問 内容	事務局の考え方
1 竹嶋委員	財政調整基金	不測の事態による支出の増加に対応出来る財源を確保するために、引き続き財政調整基金の積立てを進めるとありますが、これからの5年間で財政調整基金をどのくらいの金額まで積み立てるのか、具体的な目標金額を示すべきである。	財政調整基金については、「(改訂版)もりぐち改革ビジョン」(案)に基づき、標準財政規模の概ね10%程度の30億円の積立てを目標としており、今後とも30億円以上を目標とします。なお、当面の間は新型コロナウイルス感染症の影響により市税等の歳入減や感染症対策による歳出増に備えるため、財政調整基金の残高に配慮しつつ、適宜活用してまいります。
2 服部委員	コロナ対策と財政計画	コロナ対策でも、例えば一度消毒をするごとなどにも多額の費用が必要である。事業の継続性を保てるように資金繰りをする必要がある。危機管理事業に必要なのは、刹那的な過剰な対応ではなく、継続的に効果的な事業ができるかどうかである。資金切れになって続けられないならばむしろ途中からリスクが高まり、本末転倒だ。実害が出ないようにリスクヘッジできる効果のある閾値を正確に見定め、適格な支出のラインを見極めることが重要ではないか。そのためには、知識と判断力が必要になる。今後、どのように、安全と危険の閾値を見定め、「安全」を担保できる効果のあるポイントを見定めていくのか。また、コロナで増えた支出・減った収入は、今後、事業計画にどのように響くのか。	新型コロナウイルス感染症への対応にあたり、これまでの行財政改革により捻出した財政調整基金を財源的な裏付けとして、これまで9月定例会を含め、5次にわたる補正予算を編成し、国・府施策だけにとどまることなく、市民生活及び事業者活動への切れ目ない市独自支援施策を迅速かつ積極的に実施してまいりました。現在、財政調整基金の残高は約19億円となっていますが、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の活用などにより、今後、前年度末残高を超える財政調整基金の復元は可能となる見込みです。 今後もこの財源の裏付けをもとに、今秋以降の新型コロナウイルス感染症の感染拡大に備え、時機を逸することなく、迅速に対策を講じます。また、新年度における市税収入等の歳入減への対応も見据え、引き続き財政規律をもって感染症対策に加え、市民福祉の向上に向け、持続可能な行財政運営を図っていくことから、現時点では事業計画に影響はないものと考えています。なお、既に実施した感染症対策についてはしっかりと事業効果等を検証し、その結果を踏まえ、今後の新たな感染症対策については、より効果的なものとなるよう取り組んでまいります。
3 服部委員	歳入増加策	・税収 市民税の徴収というものが一番大きいと思うが、例えば守口市内での消費を増やす、守口で働く人を増やす、一定以上の富裕層を流入させる、など、どのようにして「入り」を増やしていくのか。	魅力あるまちづくりを進めることで、市内消費の活性化など、税収の増にもつながると認識しており、そのためにも、総合基本計画に記載している様々な取組を着実に進めてまいります。
4 服部委員	少数精鋭組織	・少数精鋭と専門知識 少数精鋭を目指す市役所を謳うのは良いが、一方で、専門知識を持った職員がいなくなっているという実情もある。せんだっての、旧庁舎解体時のアスベスト問題などは、まさにそれが顕在化した例であろう。他のケースにおいても、専門知識がないのできめ細やかな対応ができない場合や、適切な値段が見極められない場合なども耳にする。こういった問題にどう対処していくのか。 また、少数精鋭とうたうからには、実際に精鋭を養わねばならないがそのために具体的にどうするのか。 さらに、少数精鋭化と人手不足は表裏一体だが、どのように兼ね合いをとるのか・現場の実態をどのように把握するのか。	以下のとおり、素案に追記するよう検討します。 ・高い個の能力や専門性に裏付けられた少数精鋭組織を目指し、人材育成・能力開発に取り組めます。 また、職員の少数精鋭化につきましては、「(改訂版)もりぐち改革ビジョン(案)」に基づく事務事業の見直し、公共施設の再編、民間委託化等行財政改革を積極的に進めることで、限りある人材を必要な部門に重点配置しているところですが、新たな行政課題への対応やより質の高い市民サービスを実現するためには、人材育成が重要であると考えています。 ① 専門知識の習得につきましては、現場の職務を遂行するプロセスにおいて知識や技術などを有効かつ効率的に習得することができる職場内、OJT研修を通して、組織的なノウハウや知識、情報の共有化に取り組んでいます。 また、職場外研修として、技術職員を対象に知識や技術を習得することを目的とした研修計画を策定し、その実施に取り組んでいるところです。今後も、現場実態を把握しながら、職員として果たすべき役割と能力を最大限発揮できるよう取り組んでいきます。
5 河田会長	少数精鋭組織	市役所職員は、全員守口市民ですか。 市役所職員のキャリアアップのプログラムは正常に働いていますか。 それぞれの職場で自己点検評価を実施していますか？	職員全員が守口市民ではありません。 職員のキャリアアッププログラムにつきましては、研修計画を策定し、若手・階層別研修等さまざまな研修を実施しており、職員の人材育成に取り組んでいます。 自己点検評価につきましては、人事評価制度を導入しています。

基本計画(素案)に対する【質問】【意見】一覧 (施策27 公共サービス)

意見提出者	該当箇所	意見・質問 内容	事務局の考え方
1 河田会長	全般	公共サービスとは、守口市の文化レベルを上げることです。 たとえば、公立の小中学校の学力レベルを上げる努力が不足しています。 優秀な人材を守口市が輩出することは立派な公共サービスです。 主な取り組みは旧態依然としていて現実の公共サービスにつながっていません。	審議会におけるご意見も踏まえ、総合基本計画全体の取組を進め、より魅力的なまちづくりに取り組んでまいります。
2 服部委員	公共施設の適正化	コスト面などの問題もあるが、高齢化社会になり、交通弱者が増えていく中で、遠くへはなかなか行けない人々の集まる場をどのように担保していくのか	いわゆる交通弱者に対する移動手段の確保等の取組については、施策21「道路・交通」にて取り組んでまいります。 「人々の集まる場の担保」については、高齢者の活動の場として、「通いの場」や「さんあい広場」の取組を充実するほか、主な取組として「人口減少と将来における市民サービス確保を見据え、公共施設の必要な規模や機能を見定めた上で、公共施設の維持管理・更新等を進める」と記載しており、更新等を行う際に、必要な機能の1つとして検討するものと考えています。
3 西田委員	公共施設への民間資本の活用	持続可能な住民へのサービスを確立するために、公共サービスの担い手として民間資本による可能性を検証する旨を追加。	民間資本の活用についても必要であると考えており、ご意見の内容は、「5年後の守口像実現に向けた現状と課題」3の記載内容に含まれていると考えています。
4 西田委員	ICTに不慣れな方への配慮	高齢者や障がい者などIT弱者への配慮についても触れるべきと考えます。	以下のとおり、素案の追記するよう検討します。 市民の利便性の向上や行政事務の効率化のため、様々な手続の電子化などICT技術・サービスの活用拡大が課題です。また、ICT活用に不慣れな人への配慮を行うことが必要です。①